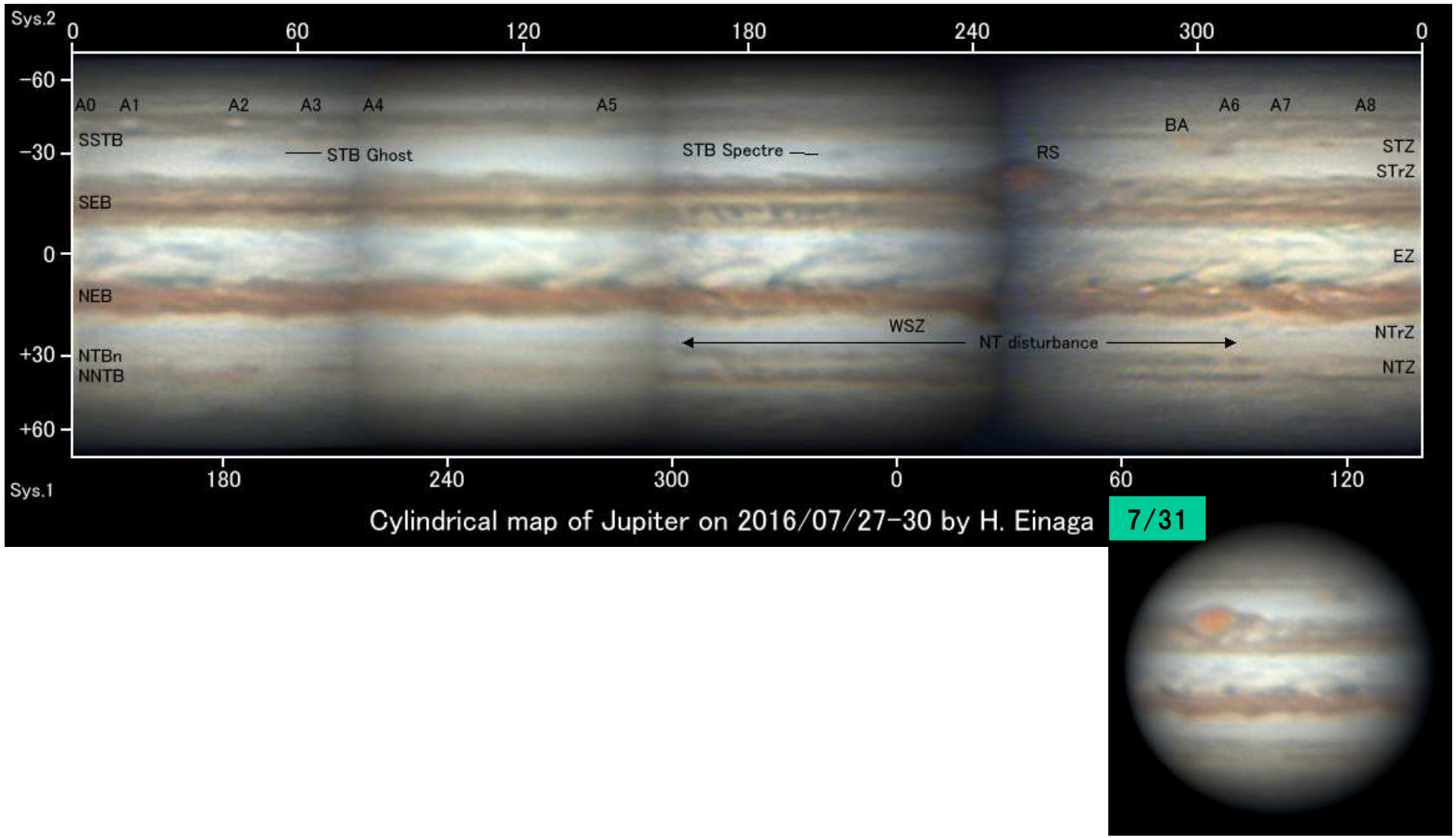
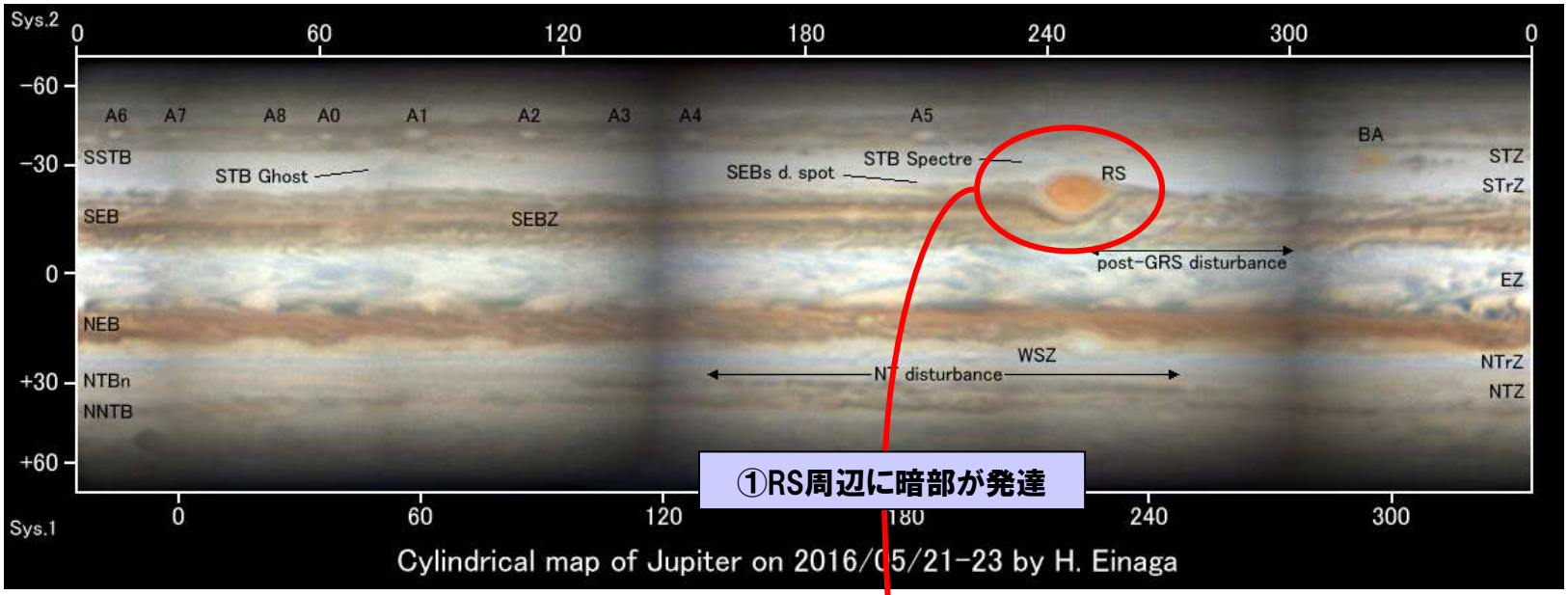
最新の木星面展開図(Recent Jupiter)

7/27～7/30 永長英夫氏撮像・作成

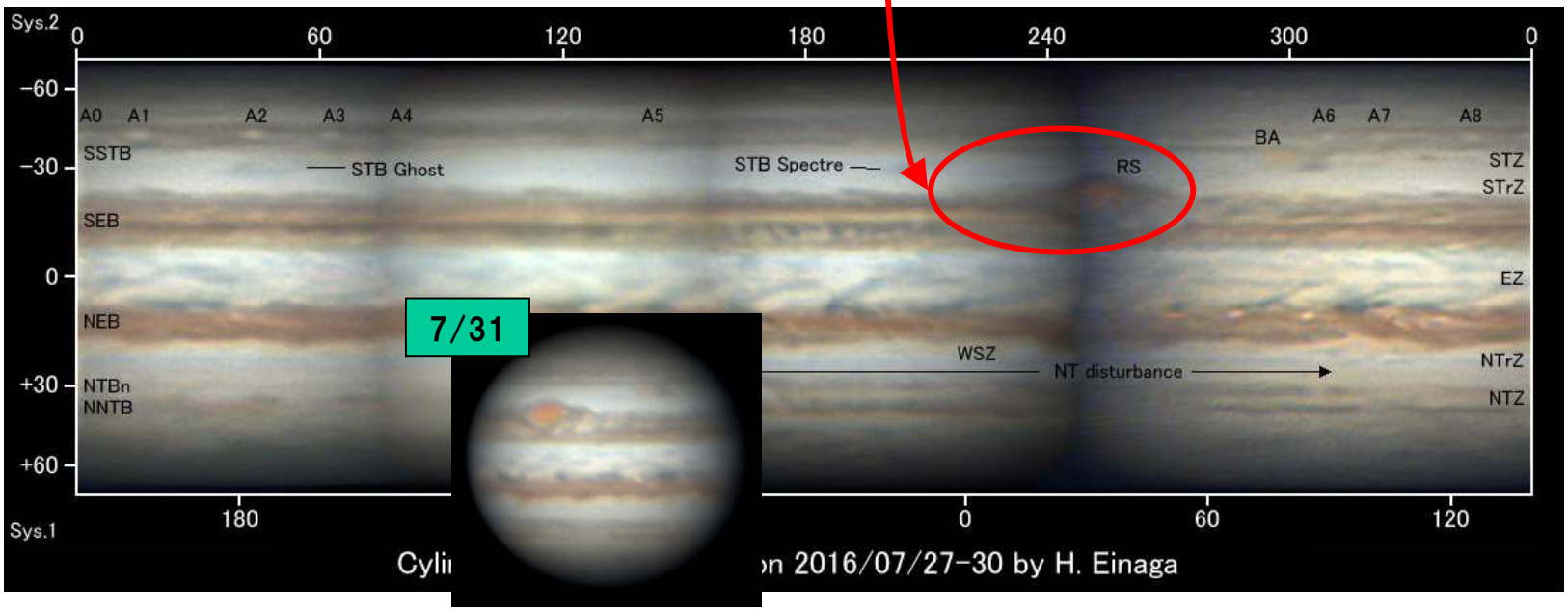


前回例会からの変化(Change since last meeting)

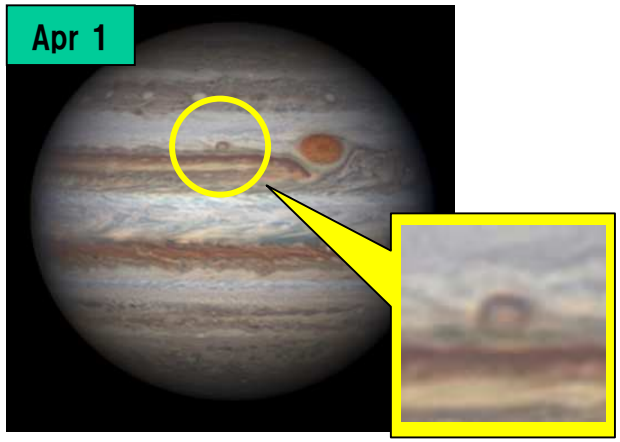
5月

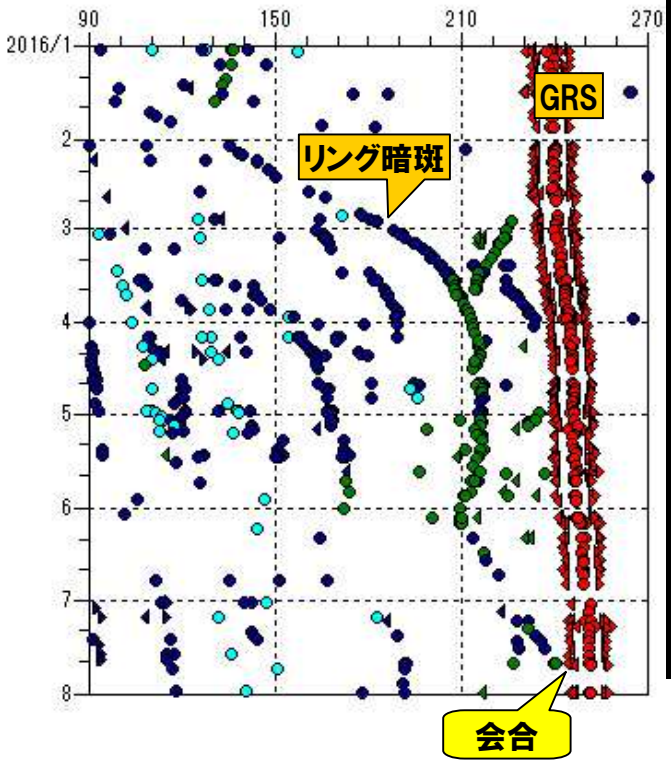


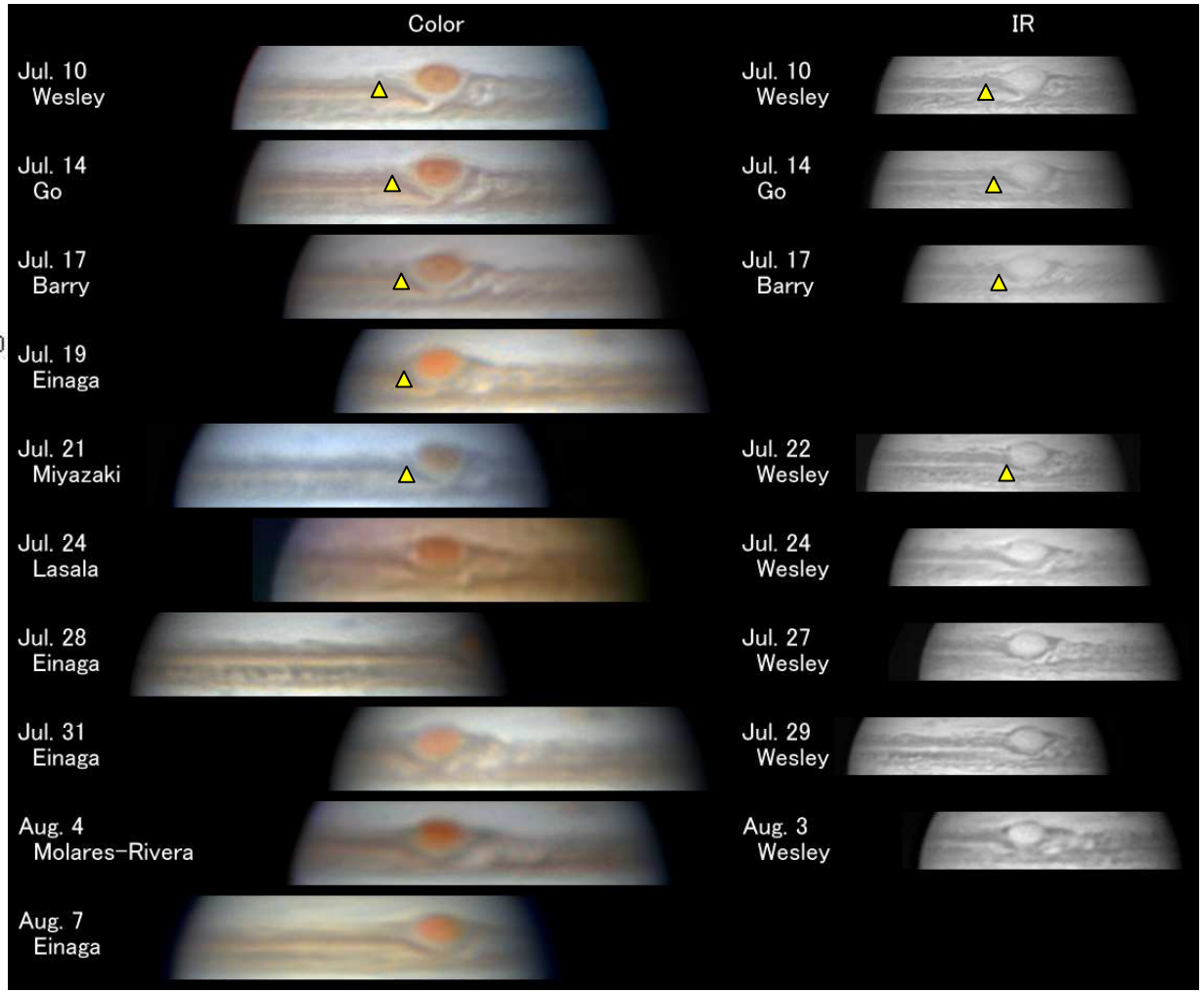
7月



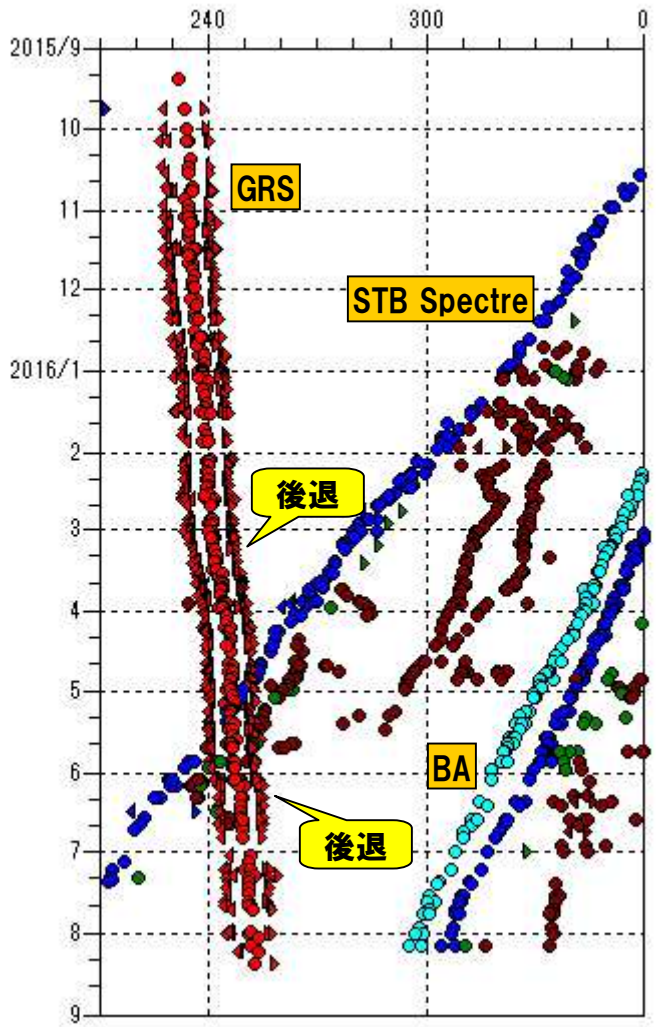
大赤斑とSEB南縁のリング暗斑の会合（SEBs dark ring）

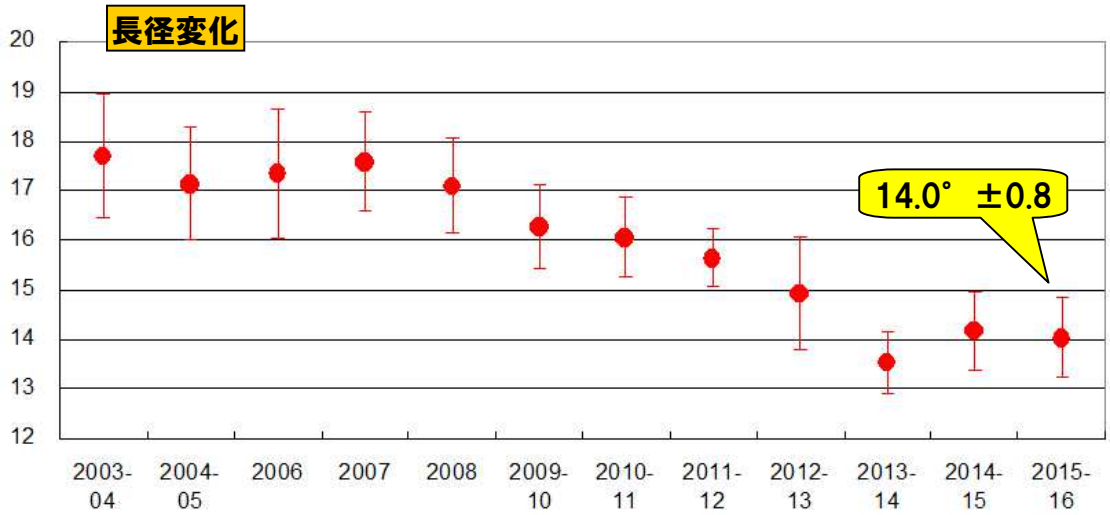


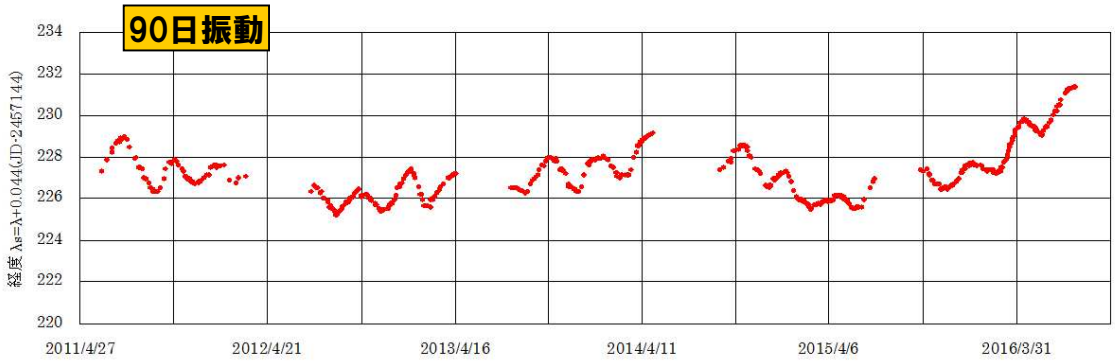


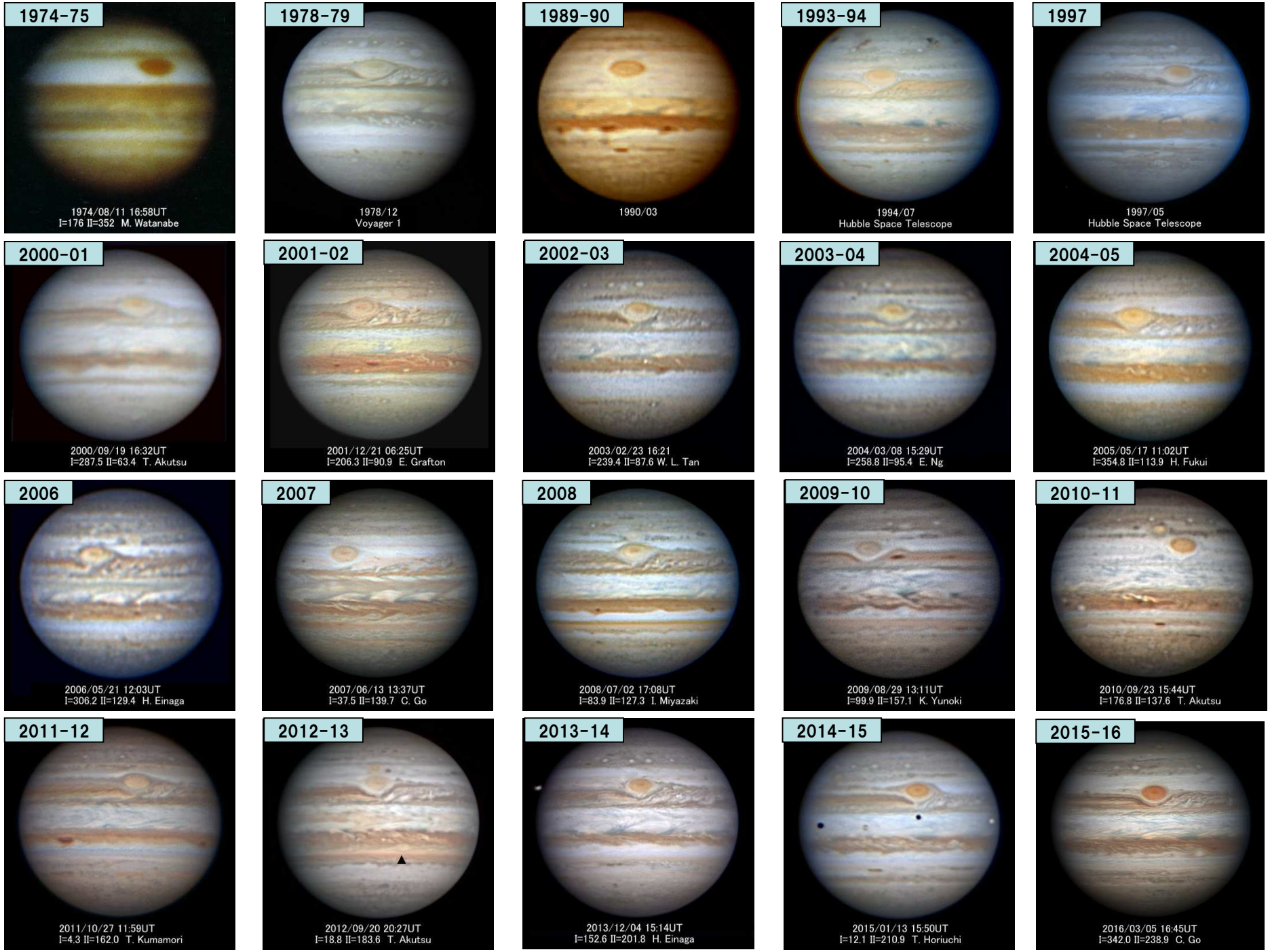


大赤斑の長径と運動(Length and motion of GRS)








1974-75
1974/08/11 16:58UT
I=176 II=352 M. Watanabe
1978-79
1978/12
Voyager 1
1989-90
1990/03
1993-94
1994/07
Hubble Space Telescope
1997
1997/05
Hubble Space Telescope
2000-01
2000/09/19 16:32UT
I=287.5 II=63.4 T. Akutsu
2001-02
2001/12/21 06:25UT
I=206.3 II=90.9 E. Grafton
2002-03
2003/02/23 16:21
I=239.4 II=87.6 W. L. Tan
2003-04
2004/03/08 15:29UT
I=258.8 II=95.4 E. Ng
2004-05
2005/05/17 11:02UT
I=354.8 II=113.9 H. Fukui
2006
2006/05/21 12:03UT
I=306.2 II=129.4 H. Einaga
2007
2007/06/13 13:37UT
I=37.5 II=139.7 C. Go
2008
2008/07/02 17:08UT
I=83.9 II=127.3 I. Miyazaki
2009-10
2009/08/29 13:11UT
I=99.9 II=157.1 K. Yunoki
2010-11
2010/09/23 15:44UT
I=176.8 II=137.6 T. Akutsu
2011-12
2011/10/27 11:59UT
I=4.3 II=162.0 T. Kumamori
2012-13
2012/09/20 20:27UT
I=18.8 II=183.6 T. Akutsu
2013-14
2013/12/04 15:14UT
I=152.6 II=201.8 H. Einaga
2014-15
2015/01/13 15:50UT
I=12.1 II=210.9 T. Horiuchi
2015-16
2016/03/05 16:45UT
I=342.0 II=238.9 C. Go

動画で振り返る今シーズンの木星面（Movie of Jupiter in 2015-16）

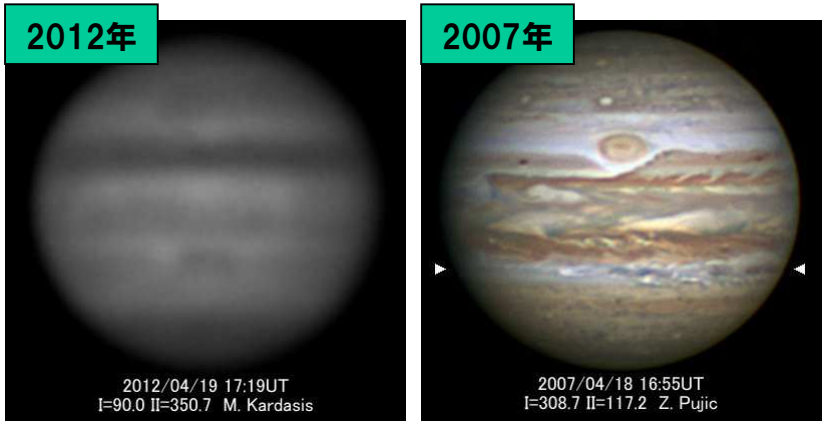
- 2015年12月16日～2016年6月24日までの木星面
- 2日分の木星画像から全面展開図
- 国内外69名の観測者、527画像

観測者のリスト（使用画像数で上位10名）			画像数
Einaga, Hideo	兵庫県	30cm	96
Go, Christopher	フィリピン	35cm	70
Miyazaki, Isao	沖縄県	40cm	57
Olivetti, Tiziano	タイ	41cm	56
Lasala, Antonio	スペイン	25cm	17
Garbelini, Antonio	ブラジル	30cm	14
Jacquesson, Michel	フランス	20cm	14
Horiuchi, Tadashi	京都府	30cm	13
Macdonald, Bruce	米国	35cm	12
Peach, Damian	英国	35cm	12

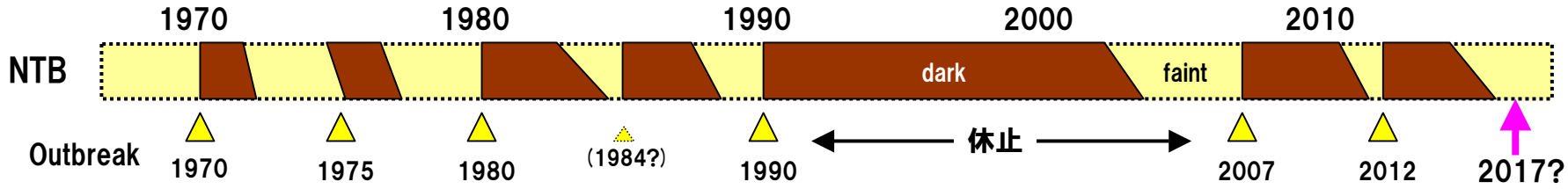
来シーズンの展望(１)(Outlook of coming Apparition -1)

1. NTBs jetstream outbreak(北温帯流-C)

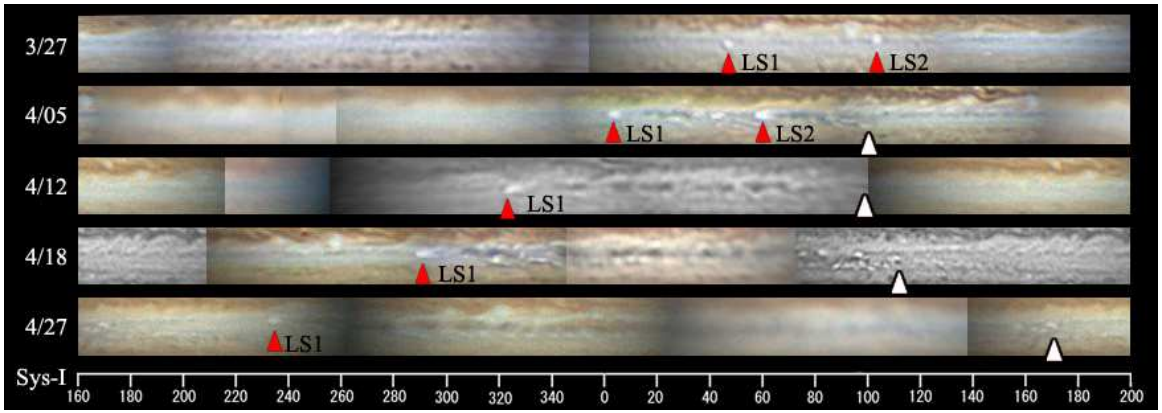
- NTBsを流れる木星面最速のジェットストリームで起こる突発的な活動(outbreak)
- 高速(I系に対して-5° /day)で前進するLeading Spotと呼ばれる白斑と、後続の暗斑群がNTBを耕すように濃化させる
- 近年は5年周期で発生、次ぎは2017年(前半?)と予想されている



1970年以降のNTBとoutbreakの発生



2007年のoutbreakの活動(伊賀氏作成)

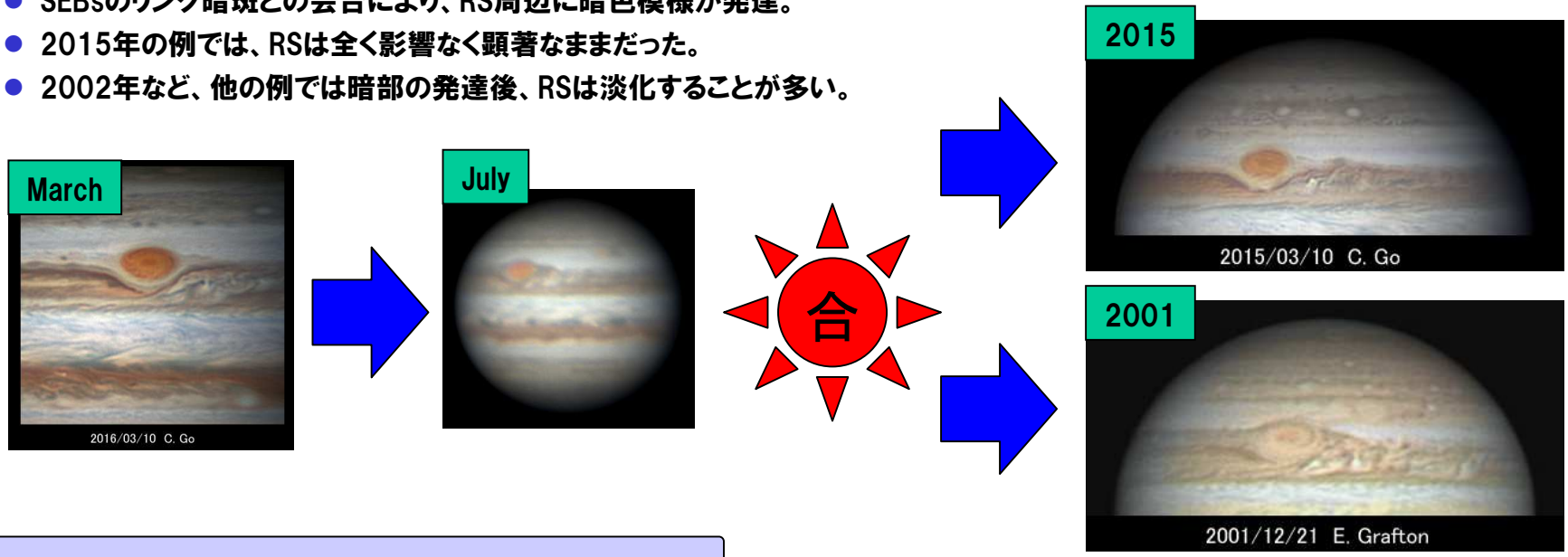


- NTB南縁(NEBの少し下)にメタンブライトな明るい白斑が出現していないか注意しましょう。
- 動きが速いので、経度は体系 Iで計算しましょう。
- 鬼のような根性と蛇のような執念を!

来シーズンの展望(２)(Outlook of coming Apparition -2)

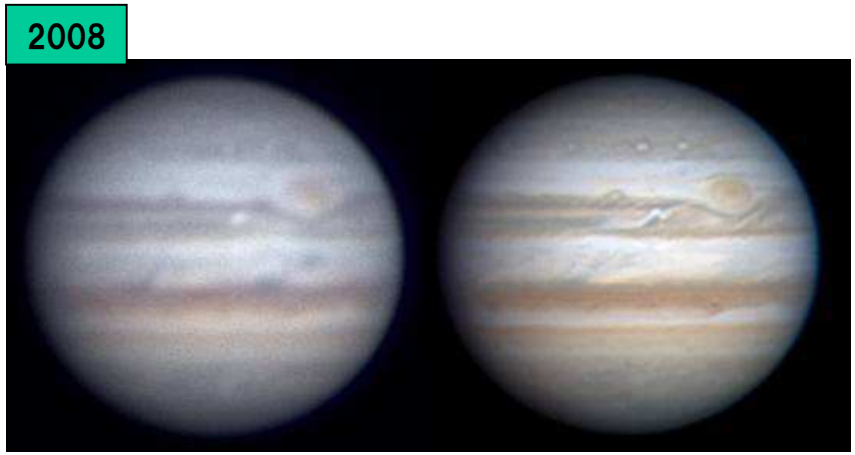
2. 大赤斑の変化(Aspect change of GRS)

- SEBsのリング暗斑との会合により、RS周辺に暗色模様が発達。
- 2015年の例では、RSは全く影響なく顕著なままだった。
- 2002年など、他の例では暗部の発達後、RSは淡化することが多い。



3. mid-SEB outbreak

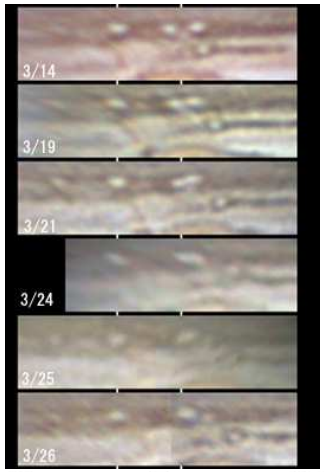
- SEB内部で起こる激しい白雲活動。
- RS後方に見られる白雲領域(post-GRS disturbance)とは異なる現象。
- SEBが濃化安定な時期に発生するので、来シーズンも要注意！



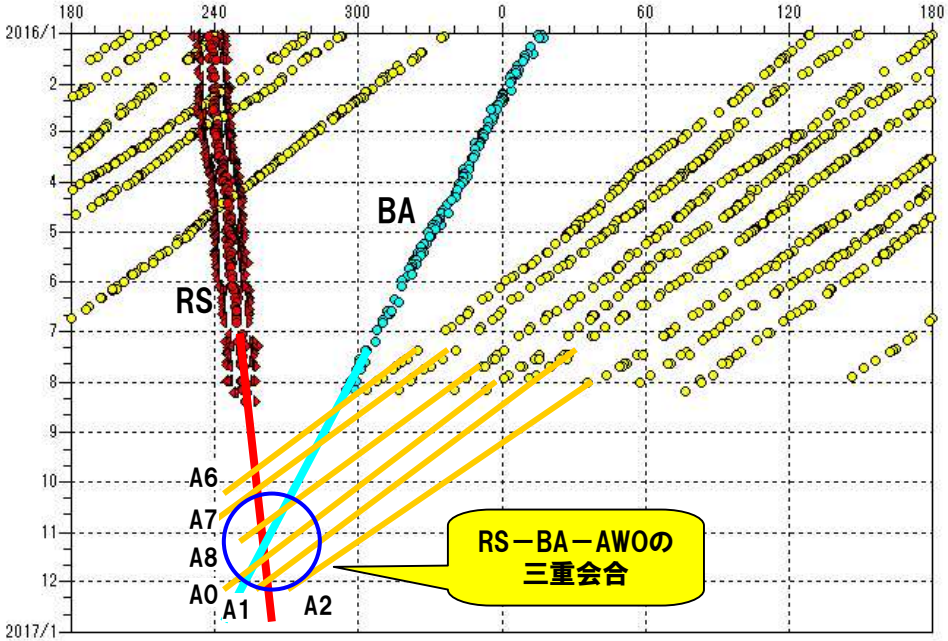
来シーズンの展望(３)(Outlook of coming Apparition -3)

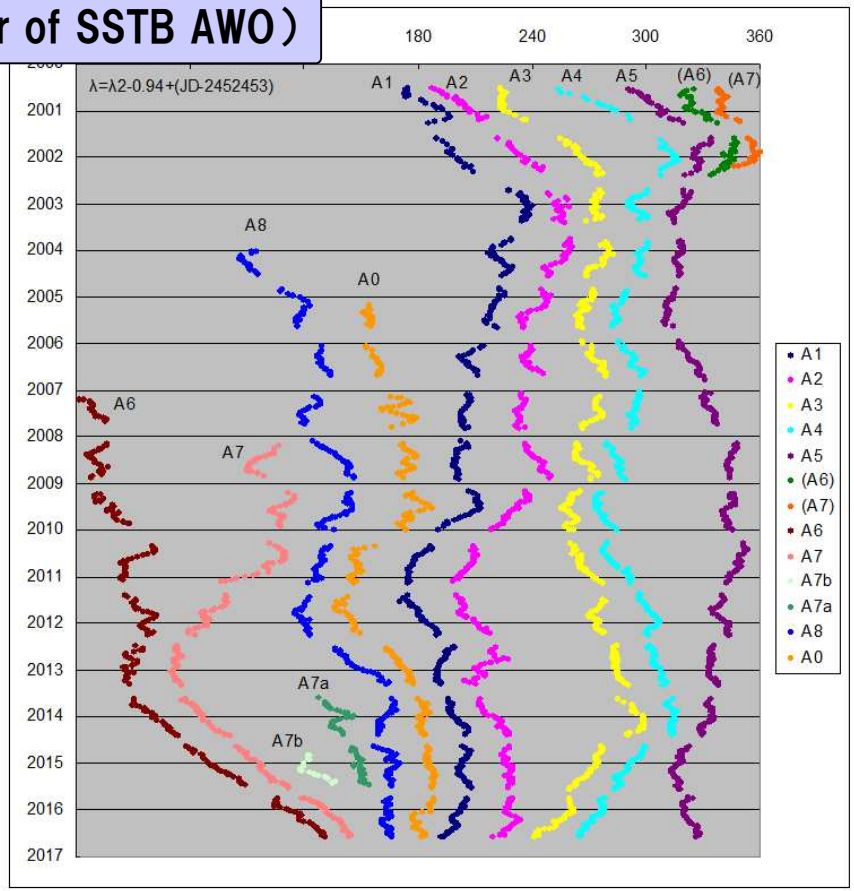
4. SSTB AWO同士の合体の可能性(Possible merger of SSTB AWO)

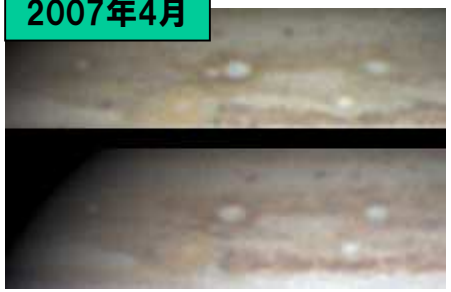
2002年3月
(伊賀氏作成の図から抜粋)



- SSTBのAWOは8個が135°の範囲に集まっている。
- 2016年11月頃にRS－BA－AWOの三重会合が起こる。
- 三重会合の前後にAWO同士の合体が起こりやすい。





2010年12月

2007年4月